

県立双葉翔陽高等学校

教科名等：家庭「家庭基礎」

単元（題材）名：これからの家族

～男女が共につくる家族～

学年：第1学年

実施状況

家庭生活を支える2つの労働には、報酬をともなう「職業労働」と、快適で人間らしい生活を送るために必要な「家事労働」があることを知らせた。職業労働と家事労働の分担のあり方が重要となることを認識させた上で、「サザエさんの家族」を例に挙げ、「気持ちよく毎日の家庭生活を送るためにどうしたらよいか」というテーマを掲げ、グループ学習（家族会議）を実施した。男女が互いに協力して家庭生活を築くためにはどのようにすればよいかを考えやすいように、「夫さんが入院したら」、「サザエさんが妊娠したら」、「サザエさんがフルタイムで仕事をしたら」という3つのケースを用意し、一人ひとりに役を与え、家族会議を展開できるようにした。

児童生徒の感想

- 自分でできることを探して、家族が困っているときに助けてあげることが大切だとわかった。
- いろいろなケースで家族のためにできることを決めた。少し話し合いがつまずいたけれど、最後はスムーズにできた。サザエさんの家族で考えたのが良かった。
- 家族会議が少し難しかった。
- どのグループもカツオの役割は「掃除」で、「食事の準備」ではなかった。

参観者の感想

- サザエ家をモデルとするアプローチは、とりかかりとして入りやすく可能性を秘めていると思った。
- シミュレーションの3つのケースが生徒たちにとって受け入れやすいものであった。また、サザエさんの家族構成がどの生徒もよく想像できたので全員が参加できる話し合いであった。
- もう少し、家族会議らしい意見交換ができるとよいと思った。

指導者の感想

生徒の現状が知りたいと思い、「家制度」や「民法」、「性別役割分業意識」等には触れずに授業に入った。予想はしていたが、カツオの分担内容は「(風呂)掃除」、ワカメは「食事全般」であった。それが、生徒が今まで見てきた「サザエさん」の各キャラクターの性格からなのか、性別による役割分担によるものなのかはわからないが、生徒たちの意識の中では「家事全般は女性がするもの」という構図があると思われる。しかし、生徒の感想に「自分ができることをして、お互い助け合う」、「今日帰ったら手伝いをする」とあり、「家族の一員として、協力して家庭生活を送る」という意識付けができたと感じる。眞の男女共同参画社会になるよう、参観者の助言を踏まえ、授業の展開や時間配分の工夫・改善に努めたい。